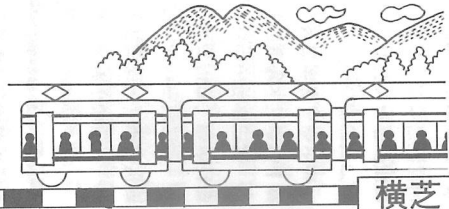


笑いをのせて、一路伊勢路へ

# 町村民号の旅



横芝

## アイディアいっぱい、満喫の四百六十八名

総武本線複線化の願いを込めて横芝町をはじめ、沿線七市町村の共催により企画した特別臨時列車「中央市町村民号」の旅が、去る五月十日から十二日までの二泊三日の日程で行われました。

西浦温泉から鳥羽・伊勢神宮へと巡った今回の旅行には総勢四百六十八名もの人々が参加し、のんびりとした列車の旅を心ゆくまで楽しみ、それぞれが胸いっぱい思い出を持ち帰りました。

「総武本線中央市町村民号」のヘッドマークを朝陽に輝かせ、九両編成の臨時列車は五月十日の午前七時五分、定刻どおりに横芝駅を出発しました。横芝町からは一般六十五名、特別職一名(収入役)・添乗員二名(職員)の合計六十八名が参加。この日を心待ちにしていたという参加者のみなさんはもう旅行気分百パーセント、配布されたお酒やジュースで乾杯し、持参のおやつをひろげ、グループ同士、車両のあちこちでおしゃべりに花が咲きます。列車には各車両ごとにカラオケが用意され、日頃の練習のたまものか、マイクを握る手つきも慣れたもの、八時間もの長い道中も、カラオケ大会やプロ歌手による歌と踊り等の催しであったという間に経ってしまいました。



宿での宴会は旅行の大きな楽しみの一つです。三百五十畳の大広間に四百五十人以上もの人々が一堂に会した「ジャンボ宴会」は二斗樽の鏡割りで威勢よく始まり、高令参加者への記念品贈呈(最高令者はなんと男八十五才、女八十三才の方でした)、プロ歌手の歌謡ショー、参加者代表による生バンド演奏ののど自慢、踊りショー(衣装を揃え、三味線を用意した、本格的な方もいました)に手拍子が沸きおこるなど、大盛会で旅行ムードはいよいよ盛りあがりました。



### 伊良湖

## 参加者の声

意義深い  
催し



越川勝哉  
(栗山)

伊勢路の旅は四六〇有余の夢を乗せ、一路西へとひた走る。三河湾を一望にした西浦温泉「銀波荘」の夜の宴に関係市町村長の熱弁も、この行のアイディアを象徴している。

習日、フェリーでの伊良湖から鳥羽までの伊勢湾の船旅は、神島をまのあたりによぎり、菅島始め大小島じま散在の間を縫うての鳥羽港着から神域へと歩を運ぶ。

五十鈴川の清流に群れる色とりどりの錦鯉は、旅愁のうちにひと時の安らぎを与えてくれる。玉砂利を踏む足に時の悠久を思う。

「シーサイドホテル」での夜の供宴にふれあいの場も最高潮にして、旅に結ばれる連帯の味をかみしめる。しかも、同じ地域環境に育まれる住民としての意識を、改めて体得した思いの旅だった。

### 伊勢神宮